

もの言う牧師のエッセー 第138話

「バイカーズ、B.A.C.A.」

子供の頃のFA(フェイと発音する)さんは、おてんばで活発な美少女だった。いつも皆を笑わせる元気一杯の子供だった。だが彼女が10歳の時、母親の再婚を機に事態は一変する。何と義父となった母親の再婚相手がFAさんに性的虐待を加え始めたのだ。誰にも言えず毎晩が恐怖の連続、まさに地獄の日々。暗闇のどん底に突き落とされた彼女からいつの間にか笑顔が消えた。部屋に引きこもる様になり誰にも会わず、毎日悪夢にうなされ僅かな物音にさえ怯えるようになってしまった。12歳になった時、ついに彼女は母親に全てを打ち明け2人は義父を告訴、3年に渡る法廷の戦いが始まる。しかしこの間、母娘の安全をいったい誰が保障するのか？ 怯えきったFAさんとショックで呆然自失の母。

そんな時、ヤツらは約20台のハーレーを連ね轟音を響かせ2人の家にやって来た！ どう見てもゴロツキのヒゲ面にサングラスの屈強そうな男たち。思わず目をパチクリする母娘。彼らの名はB.A.C.A.(Bikers Against child Abuse/児童虐待に反対するバイカーズ、“バッカ”と発音)。メンバーはFBI(米連邦捜査局)の厳重な身元調査をパスし、メンタルヘルスの資格を持つボランティア団体である。中にはセラピストや弁護士、カウンセラーもいる。目的はただ一つ、「子供を守ること」。依頼主である虐待を受けた子供たちが、“恐怖を感じなくなるまで”、24時間不休で彼らを警護する。そのため彼らはどこへでも共に行く。学校、買い物、友人宅など。警察、自治体、州政府、裁判所、学校らと連携する彼らは必要とあらば公判中の法廷にも臨席して子供らをガードする。プライバシー保護の為にメンバー及び依頼主は“ロードネーム”と呼ばれるあだ名で呼び合う。前述のFAもそうである。

彼らの努力のかいあって裁判を無事に終え、FAさんはすっかり元気を取り戻し笑顔も戻った。高校にも戻り大学へ進学、メンバーの後ろに乗ってツーリングなどのイベントにも参加する。「俺たちの本当の目標は子供らを守るだけでなく、彼らが自分の強さに気づき未来へ羽ばたくことだ。」と、B.A.C.A.ロサンゼルス支部長のトゥームストーン氏の言葉を聞いて、
聖書の言葉

「神は、私たちを暗闇の圧制から救い出して、

愛する御子のご支配の中に移していただきました。」コロサイ人への手紙1章13節

を思い出した。教会に助けを求めて訪れる人は多い。しかしそれだけでは不十分である。キリストを心に受け入れ彼を信頼するなら、彼と共に一歩踏み出すのである。あなたも今、絶望の深みにいるかも知れない。誰にも言えず一人ぼっちかも知れない。しかし、私たちが救い主であるキリストを信じた時から、彼はいつでもどこでも守ってくれる。そして我らが未来へ羽ばたく道を示し、共に歩いて下さるのだ。

2014-6-12



